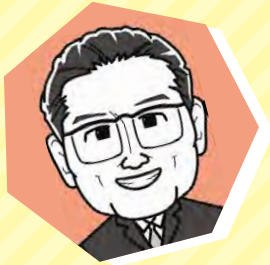


がんばる物語

part6



CONTENTS

- | | | | | | |
|----|--------------|----|---------------|----|-------------|
| 05 | …… 気候危機 | 16 | …… 市街化の線引き | 24 | …… 病児保育 |
| 06 | …… 無料生活・法律相談 | 18 | …… ふれあい収集 | 26 | …… 平和ミュージアム |
| 08 | …… 保育アンケート | 20 | …… 高齢者のおでかけ交通 | 28 | …… 下関・北九州道路 |
| 10 | …… 介護アンケート | 22 | …… 子ども医療費助成 | 30 | …… 初代門司駅遺構 |

FOR ONE MILLION SMILES

100万人の笑顔のために

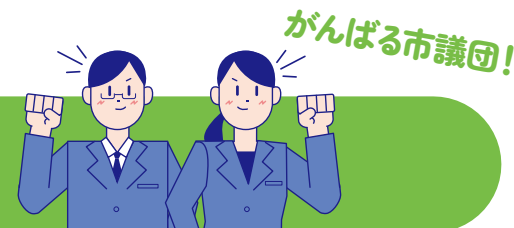
市議会ニュース

2024年12月
号外

発行: 日本共産党北九州市会議員団 北九州市小倉北区城内1-1 TEL: (093) 582-2646・FAX (093) 582-4113

日本共産党北九州市会議員団 <https://www.jcp-kitakyu.jp/>

役割と実績



私たちの役割

市長の市政運営の基本を市民の目線で指摘し、対案を示しています。

市長が提案した「市民センターの利用を営利企業にも広げる」ことについて反対しました。市長のかかげる「稼げるまち」は市民のくらしや福祉を削るもので、日本共産党は「市民の福祉を充実」する自治体の本来の役割を逸脱することになると考えます。

平和を守る

戦争への道を開く「北九州空港の軍事利用」に反対します。

国からの北九州空港の軍事利用の要請があっていることを、市民や議会にまったく知らせず、市長がNOチェックで軍事利用を了解していることは、見過ごすことのできない重大な問題です。

日本共産党は「平和なくして市民の暮らしはない」と平和の大切さを一貫して訴え続けています。

物価高騰対策

下水道使用料金の免除・ごみ袋の無料化でくらしを応援します。

北九州市は物価高騰に対して市民の暮らしを応援する事業はまったくありません。日本共産党は、市民の負担を軽減するために、すぐに北九州市として実施できる事業として、指定ごみ袋を無料に、下水道使用料金の免除を提案しています。

ムダづかいチェック

多大な借金と赤字をつくる下関・北九州道路は中止しかありません。

採算性のない事業として断念した下北道路。安倍政権時に財界の要望で復活。この事業に日本共産党以外の会派は賛成で、北橋時代と構図は変わっていません。建設費3500億円で通行料280円では採算が取れる見通しはありません。また、小倉東活断層の真上に建設では安全性が疑われるのは当然です。

日本共産党は中央の大手建設会社をもうけさせ、そのツケを市民に払わせる不要・不急の大型公共事業はやめて、市民のくらしを優先させる予算の使い方に切り替えます。

請願は市民に寄りそって

国の悪政の防波堤の役割

国の政治がひどい時こそ、悪政の防波堤として暮らしを守るのが地方政治の役割です。

党市議団は敵基地攻撃能力の保有、武器輸出解禁、異常円安と物価高騰に打つ手なしの国の政治に対して、消費税の減税、地球温暖化防止の対策強化、軍拡予算に歯止めをと、意見書を提案。

他党・他会派にも共同をよびかけ、「訪問介護の報酬引き下げの撤回を求める意見書(2024年 2月)」、「学校給食の無償化を求める意見書(2023年 9月)」などを超党派で可決・成立させました。

直接声を届ける市民の権利

市政についての要望があるときは、だれでも市議会に請願や陳情をすることができます。請願は提出時の要件に紹介議員の賛同が必要です。この3年半で提出された請願は17件で、党市議団はそのうち15件の紹介議員となっています。みんなで声をあげれば実現する立場を貫き、市民の請願権を生かした活動を後押ししています。

請願の紹介件数(全17件)

日本共産党	自民党・無所属の会	公明党	ハートフル	日本維新の会
15	1	1	1	0

気候危機

講演会を主催

党市議団は、エネルギーと地球温暖化対策について、講師を招き、講演会を開催しました。(第一回:東北大学教授、第二回:産業技術総合研究所主任研究員)講演会の中で、CO2を大量に排出する長崎県西海市の火力発電所反対運動の取り組みや、国連、地域での脱炭素の活動について市民団体に報告してもらうなど連携してきました。

エネルギー転換で環境にも雇用にも効果

再エネと省エネへの思い切ったエネルギー転換で、年間254万人の雇用が創出され、気候危機回避と地域発展の同時達成が可能になることを議会でも訴えています。

地球温暖化防止対策を追求する唯一の会派

石炭火力の段階的廃止に逆行する日本政府に追随する市の方針は到底認められません。本市独自で、再エネの拡大と30年までの石炭火力発電の廃止計画を示すべきと、くり返し議会でも指摘しています。



3年半で6,520件

市民の声を聞く!



市民の悩みに寄りそって

この3年半に8人の市議員が、弁護士の協力も得て各区でとりくんだ生活・法律相談の件数は約6,520件。さまざまな困難や悩みを抱える人たちにとって、問題の解決に向けた「駆け込み寺」の役割を果たしています。

お困りごと相談は、生活苦、雇用、医療・介護、交通事故、税金や保険料、セクハラ・パワハラ、終活など様々な問題があります。どの問題も相談者と一緒に、解決のために全力を尽くしています。



国政と市政を変えていく力に

市民の悩みや困難な問題の背景には、国民のいのちや暮らし、生業に結びつく分野を真っ先に削っていく悪政があります。

また寄せられた相談の内容を調査する中で、市政の様々な問題が明らかになることがあります。

相談を通して国政と市政のあり方をチェックし、改善していくことも、日本共産党の大事な役割となっています。

「国民の苦難解決」が立党の精神

日本共産党は市民の苦難を解決し、社会進歩のために活動することが立党の精神です。

大企業とアメリカの利益を優先し、国民を苦しめる自民党・公明党の悪政とたたかうとともに、現場で苦難に直面している市民の願いや悩みに寄り添い、その解決のために力を尽くしています。

市民の声を議会に届けるために

保育制度に関するアンケート

市民の声を聞く！



アンケートの取り組み実施

市民から直接寄せられた声に応え、要望を実現するために、日本共産党北九州市議員団ではアンケートに取り組んでいます。

2021年からの4年間では、生理と低用量ピル・介護保険制度(2回目)・保育制度・北九州市政(6回目)を実施しました。

他にも、年2回、市全体の市政懇談会を行うなど、市民の要望を直接伺う機会を大切にしています。現場の実情を把握し、政策へ反映させるため、これからもがんばります。

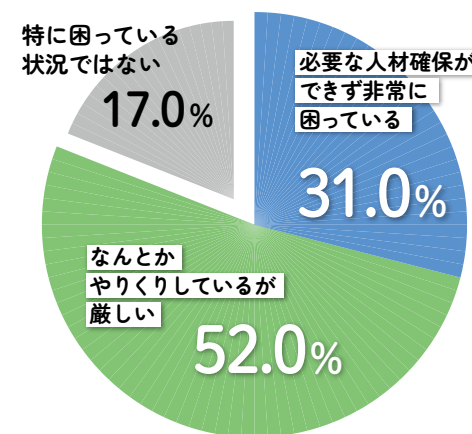
保育の人材確保に“困っている”が 83%

保育士は国家資格を持ち、専門の知識を持って子どもたちの命を預かっています。

「もし災害が起きたら0歳児3人抱えて逃げられますか」との疑問の声があがっているように配置基準も安全なものではありません。加えて、低賃金・重労働による保育士不足は深刻です。ハローワークへの登録は減っており、人材紹介会社に頼るしかない状況ですが、しかし、紹介料が高額で経営圧迫の原因になっています。

人材不足の解消には、認可・認可外ともに事業者支援を行い、保育士の処遇を改善することが必要です。

保育の人材確保はできていますか？



市独自で調査と改善を

2024年6月議会の会派質疑にて、アンケートに届けられた現場の声を、市長・子ども家庭局長にそのままぶつけました。「本市の場合は…」という市の答弁は、その感覚が現場の声とはかけ離れていると指摘し、実態調査や改善の取組と検証を行うべきと強く求めました。

市民の声を議会に届けるために

介護に関するアンケート

市民の声を聞く！



下げられた基本報酬

2024年4月より訪問介護の基本報酬が2～3%引き下げられました。

- ①利益率が全サービス平均を+2.4%と大きく上回っていたこと
- ②処遇改善加算率が全サービスの中で最も高い24.5%であることが引き下げ理由です。

国や市のこれまでの支援 不十分が97%

アンケートには、「処遇改善とかではなく、そもそもの介護報酬単価を上げてほしい。加算など要件が厳し過ぎれば、日々の業務

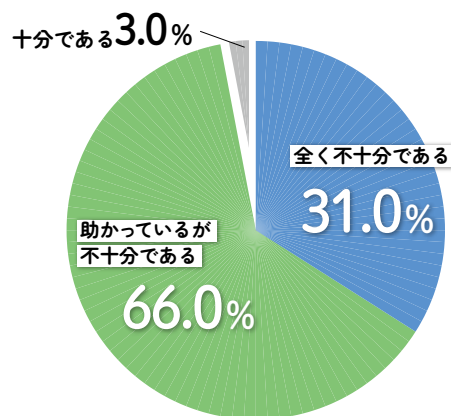
に追われる中で出来ない」「仕事をする上で、必要な生活水準が保障できなければ、やりがいがあっても、生活を優先せざるを得ない」など、今も続く現場の非常に厳しい状況が切実に訴えられています。

市民の声を届けて

2024年2月議会で、アンケートで寄せられた声とともに介護サービス全般の基本報酬が低いことに加えて、処遇改善加算の申請が煩雑なことを紹介。市内の介護事業所の実態調査と寄りそった支援を市議団が提案しました。

また、基本報酬引き下げを直ちに撤回することや、処遇改善を求める意見書が全会派一致で可決されました。

国や市のこれまでの支援は？



「低用量ピルってご存じですか？」

生理による不安の声を議会へ

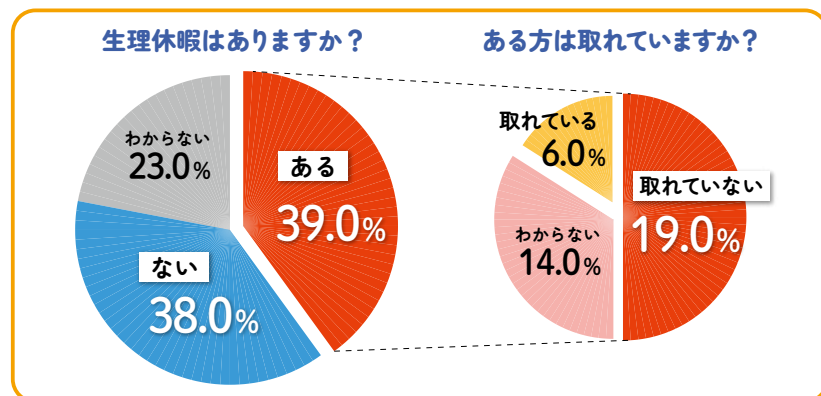
市民の声を聞く！



つらい時には休める社会へ

「生理休暇」について、認識している人はたったの39%。

体調が悪い時には休める社会にしていけるためにも、すべての人に認知してもらう必要があると、議会で問題提起をしました。



「もっと早く知リたかった」

アンケートでは、生理について、低用量ピルの効果と副作用についてなど、周知を求める声が多く寄せられました。

周知の開始

「女性の健康通信」発行

生理と休暇、つらい症状への対策についてのチラシを発行しました。

「女性の健康検定」団体受験

生理や更年期症状など女性特有の健康問題への理解を深め、より働きやすい環境作りのための問題が出題。市役所の幹部職員など37人が受験し、全員が合格しました。自治体での団体受験は全国初です。

労働ハンドブックへの記載追加

最低限知っておいてほしい労働の知識が載っているハンドブックに、「生理休暇」についての記載が追加されました。

中学校の授業でも扱われます。



2024年

市民の声を聞く!



北九州市政アンケート

今の市政のすすめ方に満足していますか?

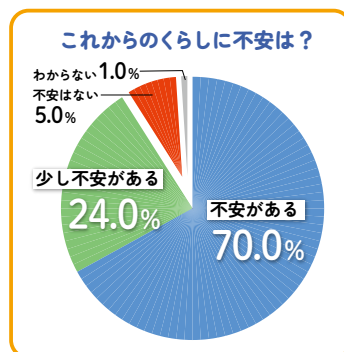
—満足しているのは14%—

「声をきいてほしい」

アンケートには、「市民への説明がほしい」、「タレント活動ではなく市長の仕事をしてほしい」、「選挙で掲げていた市民との対話を実践してほしい」など切実な要望が多く寄せられていました。

若者の70% — 将来に不安 —

20代・30代の回答が多いwebアンケートでは、70%の人が「不安だ」と回答していました。「少し不安がある」を合わせると94%に。



不安の根源は“政治”

生活が苦しい、将来が明るくなる展望が見えない、その原因は政治、税の使い方にあると日本共産党は考えています。

希望を持ち、夢を描ける市政へ

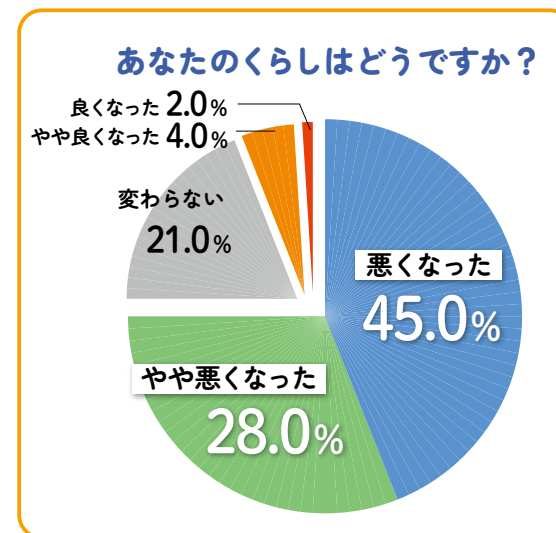
大きな企業ばかりにお金を流すのではなく、北九州市でがんばる中小企業へ仕事の発注や雇用支援を。「ゆりかごから墓場まで」市民が生涯安心して生活するための支援体制をつくり、市民の安定した生活を優先する市政への転換を目指します。

物価高騰に支援を

生活が悪くなってきた—73%—

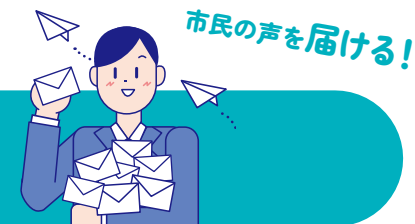
原因となっている物価の高騰。一時的な対策として「下水道

使用料の免除」と「指定ごみ袋の無料化」を議会で提案しています。実現すればすべての世帯への平等な生活支援となり、家計を助けることができます。



「市街化区域を市街化調整区域に変更」計画を

議会論戦と住民運動で断念させる



市による一方的な計画

北九州市は一方的に「市街化区域を市街化調整区域に見直し」(2019年)を提案しました。これに対して住民から「個人の財産権への侵害」「災害対策の放棄」「移転せよといってもお金がない」などの声が次々にあがりました。



市民運動と議会

関係者へ280回の市民説明会には約6200人が参加し3560件にもなる意見書が出されました。戸畑区牧山校区自治会が反対するなど、個人や団体からの反対署名6824筆が集められ大きな運動となりました。その結果、事実上白紙撤回の内容で修正させることができました。

党市議団は、計画のねらいと背景を学習し、議会での論戦を通して明らかになった課題を知らせ関係住民や反対する会などと連携し、撤回を求めて取り組みました。他会派の議員からも計画の見直しの発言が相次いだことで市当局を追いつめました。

区域区分 修正の推移

行政区	面積(ha)	人口(人)	建物数(棟)
門 司	375 ▶ 105	12,900 ▶ 5	6,200 ▶ 40
小倉北	72 ▶ 7	22,200 ▶ 0	1,100 ▶ 5
小倉南	48 ▶ 7	1,000 ▶ 0	600 ▶ 5
若 松	224 ▶ 49	6,200 ▶ 0	3,200 ▶ 30
八幡東	292 ▶ 71	10,000 ▶ 160	5,400 ▶ 110
八幡西	120 ▶ 14	2,500 ▶ 0	1,300 ▶ 10
戸 畑	26 ▶ 10	400 ▶ 0	200 ▶ 15
7 区計	1,175 ▶ 263	35,200 ▶ 165	18,000 ▶ 215

※およその数値です



ごみ出し困難な人に

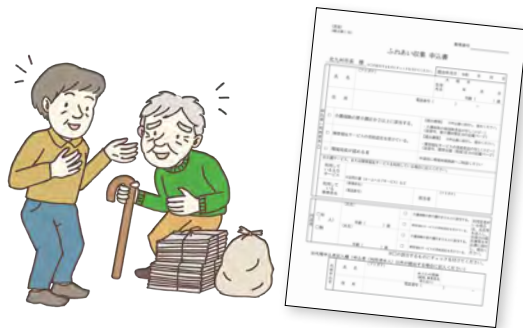
「ふれあい収集」の対象を拡大

党市議団は高齢者等の「ごみ出し困難者」への支援を市役所が行うよう粘り強く求めてきました。2014年4月に「ふれあい収集」として、ごみ出しが困難な要介護2以上または障害福祉サービスの受給認定を受けている単身世帯の方が、週に1度、自宅の玄関前にごみを出せば収集してくれる制度がスタートし、大変喜ばれました。

国が2019年度から高齢者等世帯へのごみ出し支援を行ったため、市は2021年度より、ごみステーションが急傾斜地等にあり、ごみ出しが困難な人も利用できるよう要件を緩和しました。

要件緩和の市民周知を

ところが利用者が増えていないことがわかり、2022年12月会議で質問し要件緩和の市民周知を求めました。昨年8月に「ケアマネジメント研修」で要件緩和の説明を行なわせました。利用相談がケアマネさんに相談できるようになっています。対象の方は利用しましょう。



申込書▲

ごみ集積容器

設置の補助金を新設

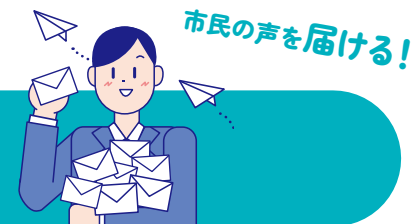
ステーションのごみをカラスが食い荒らして散乱する被害の相談が多く寄せられます。党市議団は、ごみ出しマナーの徹底や、ステーションの散乱対策として、ごみステーション集積容器等設置に対する補助金の拡大など求めてきました。

令和6年度、新たに移動式・折り畳み式ボックスの購入に上限20,000円補助が新設されました。

また、市営住宅のごみステーションを関係住民の合意でボックス式に変更できるようになりました。



高齢者のおでかけ支援



実現めざしてがんばる

タクシーにも利用できる 高齢者福祉乗車券

北九州市のバス路線は廃止・縮小の一途で、高齢者にとって利用しにくくなっています。病院やスーパーに買い物に出かけるための支援が必要です。党市議団はJR・バス・モノレール・タクシーを利用するときに交通費を補助する高齢者福祉乗車券の創設を求めています。



市議会への請願署名25,001筆が提出されています。実現のためにさらに世論を広げましょう。

ニーズの高さ

市は2023年度の交通関係事業として、3,000円分のタクシー券を2,000円で購入できる「北九州市プレミアム付きタクシー券」を3万冊発行し、即日完売でした。高齢者の移動に対する関心の強さ、切実さが示されています。

実現しました

「お買物バス」の運行

若松区では、大型バスが運行できない高台などを9人乗りマイクロバスを使って、高齢者が買物や病院に行くための「生活の足」として7つのコースを運行するお買い物バスの運行を実現しました。引き続き、タクシーでも利用できる高齢者福祉乗車券の実現へ頑張ります。



子ども医療費助成対象を

18歳まで拡大

党市議団は、子どもの健康を守ることと子育て世代の医療費の負担軽減を求めて対象者の拡大を求めてきました。助成対象の拡大は、令和3年4月に中学生まで、令和4年1月に高校生まで拡充することができました。しかし、通院費ではまだ一部負担金があります。完全無料化に向けて引き続きがんばります。

子ども医療費助成拡大の推移

改正年度	入院費	通院費
2021年	中学卒業(15歳)まで無償	3歳未満無償 就学前～高校生助成(※)
2022年	高校卒業(18歳)まで無償	同上(※)

※負担額(就学前まで600円、小学生1,200円、中学生以上1,600円)

第2子から

保育料無償化を実現

物価高騰の影響が大きいと見込まれる多子世帯を支援するために、2023年12月から第2子以降の保育料が無償化されました。

相談支援窓口を開設

ヤングケアラー支援

党市議団は、実態調査や事例検討、相談体制、啓発などの取り組みを求めてきました。

ヤングケアラーの早期発見と支援のために、ヤングケアラーやその家族、関係機関からの相談や学校と連携した支援等をする相談支援窓口が2022年5月にウエルとばたに開設されました。

さらに相談体制を充実させるために、コーディネーターが学校などへ出向く、アウトリーチ機能を十分に発揮させるために現状の2人体制をさらに強化することなどを提案しています。



実現まで27年かった

市内全区の病児保育設置

1997年の9月議会で、病児保育を各区1カ所の設置を要求していました。当時、少子化や女性の社会進出など、子どもや社会を取り巻く状況が急速に変化しており、子育てと仕事の両立のための支援施策が必要と質問していました。



北九州市
HPより

くわしくは
こちらから



戸畑区に新設

あれから27年で全区の13箇所設置が実現します。さらに市が目標とする14箇所目を早期に実現することを求めています。

病児保育の完全無償化

「県の取りくみで病児保育は無料になったはずなのに、勤務先にある病児保育は有料のまま。どうにかしてほしい」と医療機関で働く市民から声が寄せられていました。

2023年12月、この声を議会に届け追求した結果、北九州市内の病児保育の利用料がすべての施設で無償化になりました。

毎年実施

学校ウォッチング

毎年夏に、各区で1～2校の学校施設や通学路の点検をする「学校ウォッチング」に参加しています。現地視察後は、教育委員会との懇談の場を設け、子どもたちの学ぶ環境の改善を実現させてきました。



改善実施された主なもの

- 貫小学校の教室カビ問題
- 戸ノ上中学校の武道場の雨漏り
- 吉田小学校ブロック塀の補修



議会でも指摘→改善

八幡西特別支援学校の給食調理室の水道水から鉄さびが出ているという相談を受け、市議団で現場を視察しました。同校では、約10年間にわたって水道水に鉄さびが混入。調理員が毎朝「お茶パック」を設置するなどで対応していたことが判明しました。

議会での質問後、125校中25校で同様の問題が発生していることが明らかになりました。2024年の夏休みから順次大規模改修等で改善されることになりました。



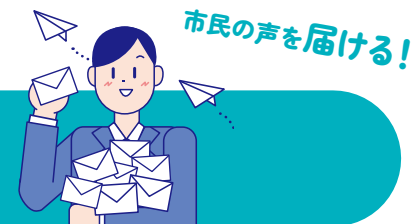
悲願！

平和ミュージアムの実現

党市議団は、戦争の悲惨さや平和の尊さについて考え、後世に伝えていくための拠点施設として公設の平和資料館の建設を求めてきました。

開館への道のり

2022年に平和のまちミュージアムがオープンしましたが建設までの道のりは、非核平和都市宣言への市の態度が重要でした。1983年に市議会では「非核平和都市宣言」を賛成多数で可決していましたが、当時の市長は全会派一致でないため、市として宣言することを拒否してきました。



2009年に「非核平和都市宣言」を全会派一致で決議しました。これを受けて、翌年2010年、北九州市非核平和都市宣言が行われました。

平和のまち北九州

北九州市には小倉造兵廠跡をはじめ多くの戦跡があり、給水塔の保存を求める市民運動などを通じて民間による平和資料館が開設されました。

こうした平和運動の積み重ねと、平和資料館を求める党市議団の議会質問を繰り返す中、多くの努力と時間をかけての平和ミュージアムを実現することができました。

平和を守れの声をこれからも

党市議団は「平和なくして市民の暮らしはない」「平和をまもれ」と、これからも平和の大切さを一貫して訴え続けます。

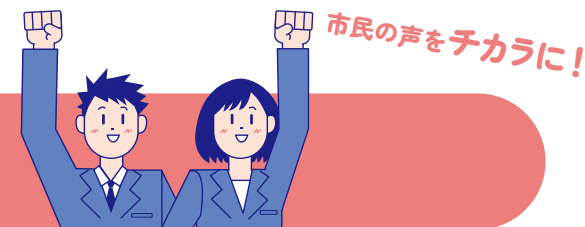


膨大な借金と赤字をつくる

下関・北九州道路は中止を！

2008年に国が採算の取れない事業と断念した下関・北九州道路。ところが財界の意向で安倍政権時代に計画が復活しました。

党市議団は、事業費3500億円の橋梁建設について、必要性や採算性、安全性について議会論戦を重ねてきました。市は「災害時の代替道路が必要」と言っていますが、地震や台風など災害が起きれば新たな橋梁も同じ影響を受け、北九州都市高速道路は通行規制がかかり代替とはなりません。



採算性と安全性

1日の交通量は22,200台、料金は280円の想定では、採算の取れる見通しはありません。さらに小倉東活断層上に建設することは、安全性を無視したものとわざるをえません。



武内市長も早期実現を表明しており、この事業に対して日本共産党以外の会派は推進の立場をとっており、前北橋市政時代と構図は変わっていません。

今、必要なのは橋よりも

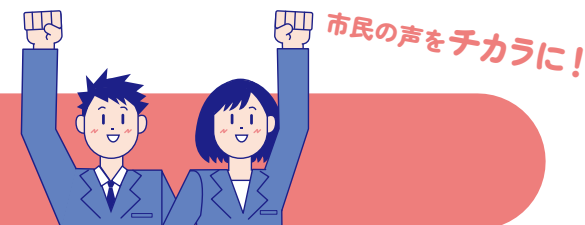
物価高騰で市民のくらしが大変です。不要・不急の大型公共事業のムダづかいをやめて、くらし最優先の政治に切り替えましょう。

借金は計画的に

北九州市には、これまでの大型開発で、多額の借金が残っています。総額は1兆5,000億円超え。

赤字補填と借金返済で、市の財政から毎年約38億円を払い続けています。(令和6年度予算資料より)

初代門司駅遺構をめぐる動き



2023年3月	JR九州より土地の引き渡しを受け試掘	以降の一部を確認、発掘調査が必要と判断
5月	埋蔵文化財包蔵地の届け出(市→県)	埋蔵文化財包蔵地に指定
6月	6月議会に発掘調査費用を計上	
9月～11月	発掘調査	市原猛志(熊本学園大講師)
1月25日	市長記者会見で「遺構の一部移築方針」を公表	
2月	「遺構の一部移築費用」を補正予算に計上…修正動議提出	賛成多数で可決
3月15日	市長へ抗議、JR九州掘削工事(12/25、26、2/28、3/1、4)	2023年10月届け出に市文企画課が了承
3月21日	議長、副議長が市長へ申し入れ	
4月8日	日本共産党北九州市議会議員団見解発表	
4月19日	複合公共施設の早期建設を求める嘆願書	市民有志が507筆提出
4月26日	追加発掘調査のための試掘(5/7まで)	計10か所
5月15日	保存を求める会 緊急署名1341筆提出(門司353人市内683人市外305人)	4/23～5/13までの20日間
5月30日	11の学術研究団体への誠意ある回答・協議を求める申し入れ	
6月14日	6月議会 補正予算可決	
6月24日	JR九州掘削工事再開(工期は8月末)	市民有志で中止と計画変更を求めてスタンディング
7月24日	全国の専門家が連名で嘆願書を市芸術文化振興財団に提出	発起人:武末純一、溝口孝司 両氏が財団を訪問 他専門家43人が賛同
7月26日	「門司の歴史を未来につなげる会」秋武正道代表など11団体	1230筆、遺構の保存と複合公共施設整備計画の見直しなどを求める
8月6日	「初代門司港駅跡の保存を求める会」追加署名提出	1875筆 計3216筆
8月14日	門司区の11のまちづくり団体が「門司の未来を考える会」を結成	代表:吉田清春
	後に「門司と北九州の未来を考える会」に名称変更	代表:平出隆
8月26日	追加発掘調査開始	
9月4日	イコモスが遺構解体の中止を求める「ヘリテージアラート」を発出	国際的注視される国内4例目
9月18日	既存構造物取り壊し工事の入札で土木工事会社・井上興産(小倉北区)が35,284,000円で落札	

10月7日	「門司と北九州の未来を考える会」が4つの代案を市長に送付	
10月8日	「門司港地域での複合公共施設の工事をいったん中断し学識経験者との協議を求める決議について」日本共産党北九州市議団提出 賛成少数	
10月31日	複合公共施設の入札なし 予定価格70億692万円	応札意向だった事業者が辞退し入札が成立しなかった
11月上旬	初代駅舎を囲む石垣が大規模に出土	
11月13日	施設整備に関する契約の見直しを求めて住民監査請求「門司と北九州の未来を考える会」	
11月20日	武内市長、「溝口氏」と「門司北九州の未来を考える会」と初めて面会	それぞれ30分間づつ
11月21日	市長が遺構に関する方針を会見で発表(LIVE中継なし)	市民の安全安心を守り門司の遺構の記憶をつなぐ5つの方策(一熟慮?の結果)
11月25日	初代門司駅遺構の保存に関する申し入れ	
11月26日	12月議会に123億3400万円のうち118億3400万円を減額の案を提案	
11月27日	住民監査請求の陳述会「門司と北九州の未来を考える会」	監査手続きが終了するまで解体工事を中断することを求める「暫定的停止勧告」を要請
11月28日	解体工事に着手	
12月3日	「初代門司駅跡の保存を求める会」追加署名提出	384筆 計3600筆
12月11日	杭工事に要する5億円を残して、118億3400万円の減額補正を可決	

これまで、15を超える団体や個人から、要望書15件以上、陳情10件以上が提出されています。日本共産党北九州市議会議員団は、解体現場前で抗議の街頭宣伝を続けました。



市民の願い実現へ 市議団とともに

学校給食の無償化へ 市民運動と議会を 結んでがんばる

請願署名24628筆を議会に提出
(学校給食の無償化をめざす会)

紹介議員の会派は共産党だけ。無償化への段階的な実施を求める意見や教育委員会として市長へ予算を強く要請する意見が相次ぎ継続審査としました。

全国で学校給食無償化は
722自治体

文部科学省の実態調査で、1794自治体中、無償化実施の自治体は722で40.2%。北九州市の予算全体の0.5%でできます。



高齢者の補聴器購入の助成を北九州市でも

全国298自治体で
補聴器購入の助成制度

全国でも補聴器購入の助成制度を実施している自治体数は、この3年間で約8倍に。

陳情署名10918筆を議会に提出

25医療機関を含む27団体署名と10918筆の個人署名が集まり、議会に提出されました。保健福祉委員会の陳情審査では、荒川・伊藤両議員は助成制度を北九州市でも実施するよう強く求めました。

緊急物価高騰対策 下水道料の免除 ごみ袋代の無料

本会議で「市独自の物価高騰対策がない」と厳しく指摘し、市民の負担を軽減するために、市民アンケートで要望の強い下水道使用料免除(4ヶ月分)とごみ袋代の無料化を提案しています。

八幡西区

八幡西区

戸畑区

若松区

小倉南区

小倉北区

小倉北区

門司区



日本共産党北九州市会議員団 <https://www.jcp-kitakyu.jp/>

